

「平和の俳句 11」

2015年11月03日

「東京新聞」の「平和の俳句」の10月に掲載された句からいくつかを紹介し、私の感想を書き加えたい。「戦せぬ小さき国のゆかしさよ 佐藤晴郎(60)」くいとうせいこう その愛らしさ、偉大さ、美しさ、繊細さ、人類史上での誇らしさよ。><金子兜太 スイスがその例にあげられてきたが、日本も憲法九条で貫いてほしい。> 覇権を競い合う国々の醜悪さを見れば、戦争しない小国がどれほどゆかしいか。「天高したたかわないと決めたんだ 笹沼良子(64)」<金子兜太 「あの戦争で命を亡くされた世界中の全ての方の無念を背負って憲法九条を必ず残す」と力強い主婦の自覚の潔さ。> アジアの諸地域で、戦争で亡くなられた方々は日本人死者の7倍にも及ぶ。彼らの無念さも九条は背負っている。「アメリカの老兵罪を謝して逝く 平野和男(68)」くいとうせいこう 作者の知人、元米国海軍士官がつい先日なくなり、ご子息から謝罪のメールがあった、と。心の傷は戦勝国にも。
> 戦争は勝っても負けても傷が残る。殺し合ってはいけないという神からの声ではないか。

「伯母の名も加えられたり原爆忌 薬師寺良晋(57)」くいとうせいこう 「長崎在住の伯母が昨夏亡くなった」と作者。十八歳で被爆。それからの苦しみを思う。名簿に刻まれた命。> 私の友人の奥さんは、母親に背負われ、2人の姉たちは母親の手にすがり、被爆後、逃げまどった。3姉妹は皆、原爆の後遺症で召された。3姉妹も死没者名簿に刻まれている。「遺骨無き墓に供えるおはぎかな 大竹晃子(47)」<金子兜太 遺骨の戻らない戦死者の墓が多い。戦争の残酷を知れ。せめておはぎを。>くいとうせいこう 作者の伯父は特攻隊として還らなかったという。好物のおはぎを供えて。> 戦争は遺骨を世界にばらまく愚拳である。海底に、密林に放置された遺骨は何を願っているか。平和しかない。

「凝視せよ薄暗がりへ続く道 長沼通郎(41)」くいとうせいこう 不気味な時空間への恐れと警戒。我々に凝視を誘い、対象をこそ恐れさせることを促す。渡辺白泉の一句とも照応する。> 渡辺白泉は「銃後俳句」という無季俳句で知られた人で「戦争が廊下の奥に立ってゐた」と詠んでいる。

「平和の俳句 戦後70年」の文化部長・加古陽治の選句から。「平和歌手淡谷のり子を称えましょう 森本忠紀(71)」私は淡谷のり子の歌が好きである。そして、人を恐れぬふてぶてしい態度が好きである。だから、戦時中も「もんぺ姿」でなく、派手なドレスを着て歌ったのである。津軽の「じょっぱり」の気質であろうか。「噫乎(ああ)地球人類いまだ野獣なり 遠藤正登(76)」人間は強い弱い、勝った負けたの弱肉強食の野獣から、いつ抜け出すことができるのであろうか。戦争は人殺しが正当化される不条理、多く殺した者が賞賛される理不尽、人類最大の罪である。

社会部・矢島智子の選句から。「萎えし足地団駄ふんで行けぬデモ 城田幸見(80)」脳梗塞を患い、歩行がままならない80歳の城田氏が「安保法案」反対のデモに行きたくても行けない口惜しい思いを詠っている。安心して、明日を託せる老後であってほしい。

文化部・出田阿正の選句から。「主語抜け落ちた落とされた原爆忌 青山まり子(64)」原爆碑には「安らかに眠ってください 過ちは繰返しませぬから」と刻まれている。主語がない。安倍首相の「70年談話」にも主語がなかった。主語を持つ言葉で責任を負うことが大切である。「平和でも餓える子がいる夏休み 後藤泰子(85)」ゾッとする句である。事実、餓えた子どもたちがいる。この子らのお腹を満たすことが「積極的平和主義」ではないか。